

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社  
Emergency Assistance Japan (EAJ)

証券コード:6063

Emergency  
Assistance  
Japan



2025年  
12月期

決算説明資料

2026年2月12日

# 決算業績サマリー

# 決算業績サマリー①

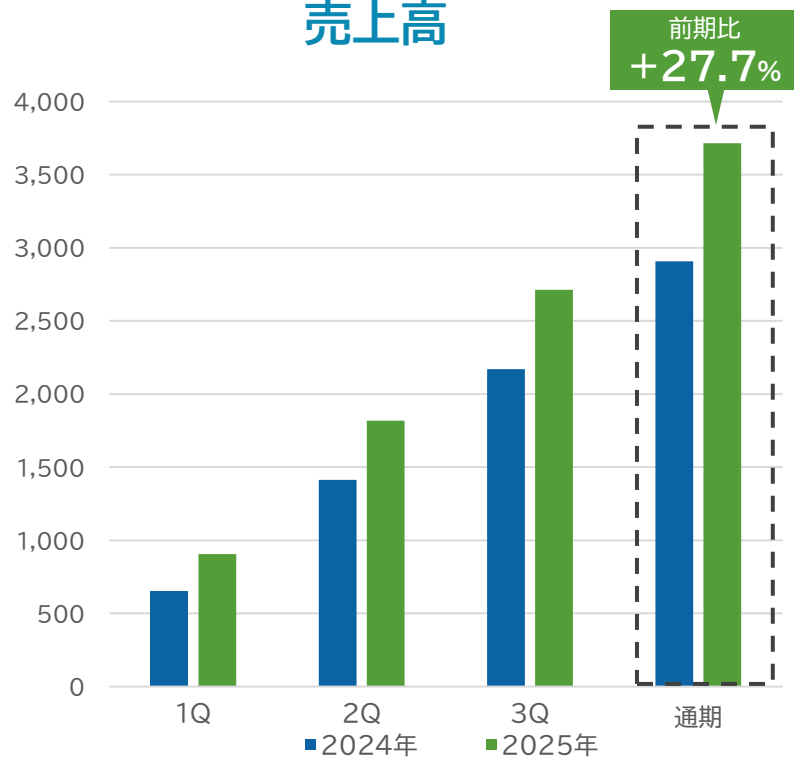
- ◆ 海外大手損害保険会社から海外旅行保険に付帯するアシスタンス業務を受託したこと及び厚生労働省から継続受託した「EMIS(広域災害・救急医療情報システム)サービス事業」が売上に寄与

(単位:百万円)

	2024 通期	2025 3Q	2025 通期	対前期 増減額	同左 増減率	対前四半期 増減率
売上高	2, 908	2, 712	3, 714	805	27.7%	36.9%
営業利益	52	20	96	43	84.2%	358.9%
経常利益	63	44	103	39	62.4%	131.2%
当期純利益	48	50	101	53	112.1%	100.2%

# 決算業績サマリー②

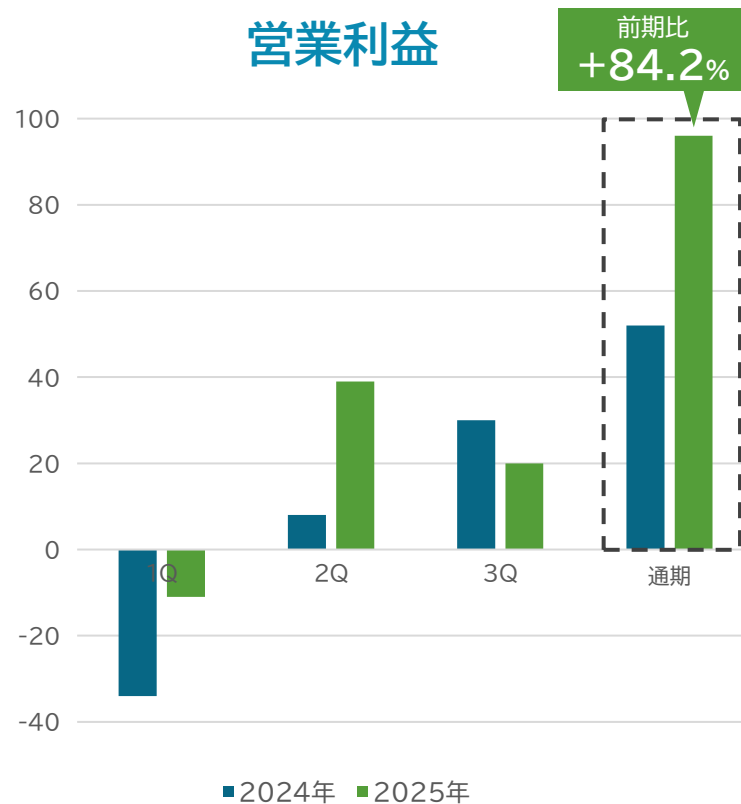
## 売上高



	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	656	1,413	2,170	2,908
2025年	906	1,817	2,712	3,714

(単位:百万円)

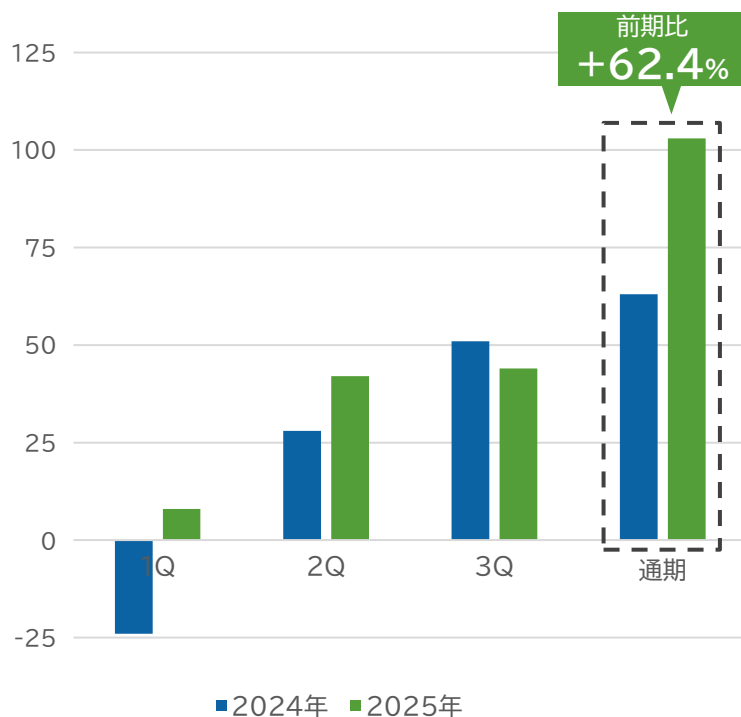
## 営業利益



	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	△34	8	30	52
2025年	△11	39	20	96

(単位:百万円)

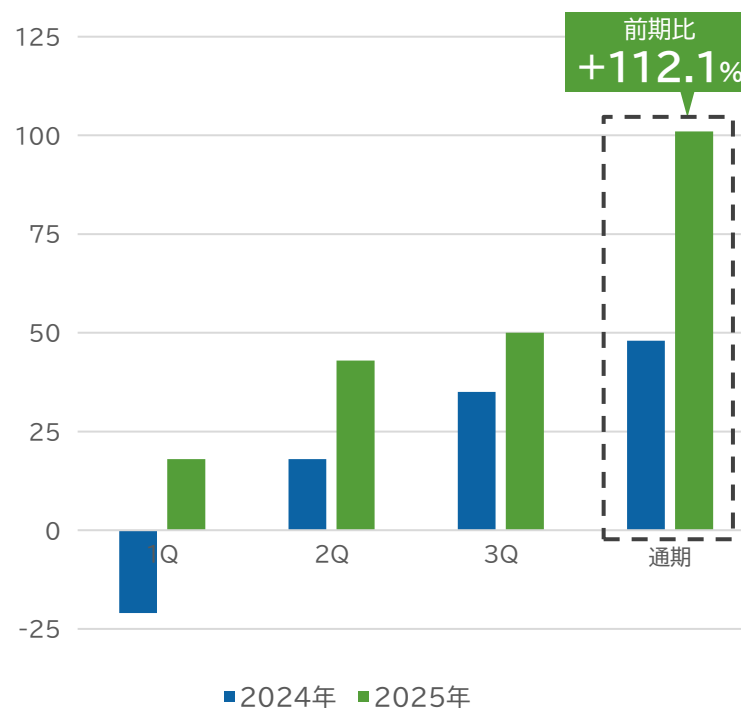
## 経常利益



	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	△24	28	51	63
2025年	8	42	44	103

(単位:百万円)

## 親会社株主に帰属する四半期純利益



	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	△21	18	35	48
2025年	18	43	50	101

(単位:百万円)

# 2026年度 通期連結業績予想

## ◆ 2026年12月期 通期連結業績予想(2026年1月1日～2026年12月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期 予想	百万円 4,000	% 7.7	百万円 200	% 108.1	百万円 200	% 93.1	百万円 140	% 37.4	円 銭 55.57

2026年は「EAJ Next Vision中期経営計画2025-2027」の2年目

この経営方針の実行方策を推進する以下の3つの柱を積極展開

1. AIによる業務改革: AI導入によるDX化の設備投資を積極的に実施
2. インバウンド事業の拡大: 医療ツーリズムは、高度医療・専門治療のコーディネート機能の強化、  
医療と観光を融合した滞在型プログラムの開発、訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業  
は新規の海外損害保険会社等の開拓
3. 顧客基盤拡大の積極展開: 新たなサービス提供、顧客紹介マッチング提携企業からの紹介案件の  
契約獲得、サービスアプリ統合による利便性改善で新規顧客獲得と既存顧客の会員数増加を目指す  
これらを受けて、当連結会計年度の通期業績予想については、売上高4,000百万円、  
営業利益200百万円、経常利益200百万円、親会社株主に帰属する当期純利益140百万円、  
1株当たり当期純利益55.57円と予想

# セグメント別業績ハイライト

# セグメント別業績ハイライト①

	(単位:百万円)	売上高	利益
セグメント 合計	2025年	3,714	630
	前期	2,908	539
医療アシスタンス 事業	2025年	3,230	516
	前期	2,459	438
ライフアシスタンス 事業	2025年	484	114
	前期	449	100
調整額 ※	2025年	—	△534
	前期	—	△487

## 医療アシスタンス事業

### 海外旅行保険付帯のアシスタンスサービス

売上高は前年同期比で増加

### 法人との直接アシスタンスサービス

売上高が前年同期比で増加

### 訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業

訪日外客数の増加で、売上高は前年同期比で増加

## ライフアシスタンス事業

### ライフアシスタンス事業

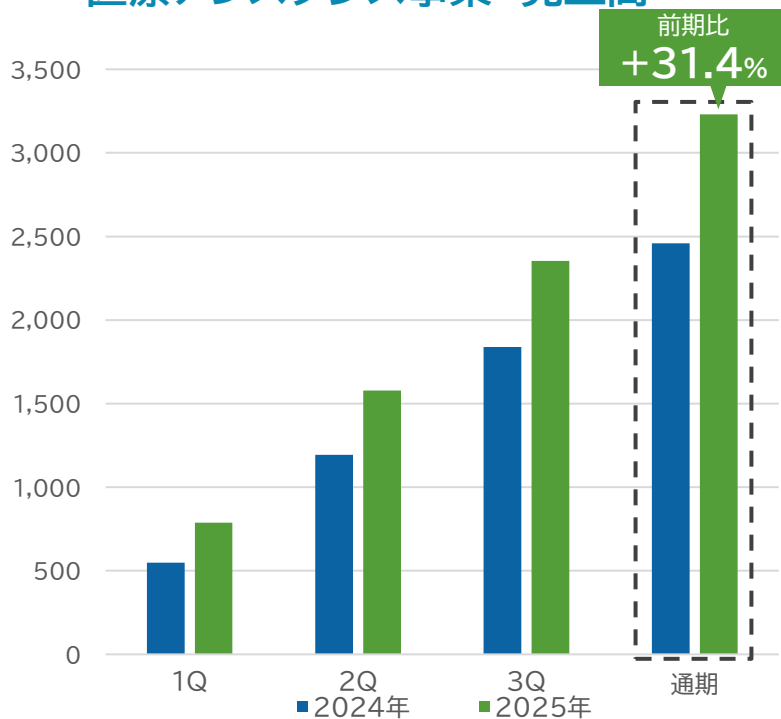
既存取引先との契約見直し等で、売上高は前年同期比で増加

※調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと  
※セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している



# セグメント別業績ハイライト②

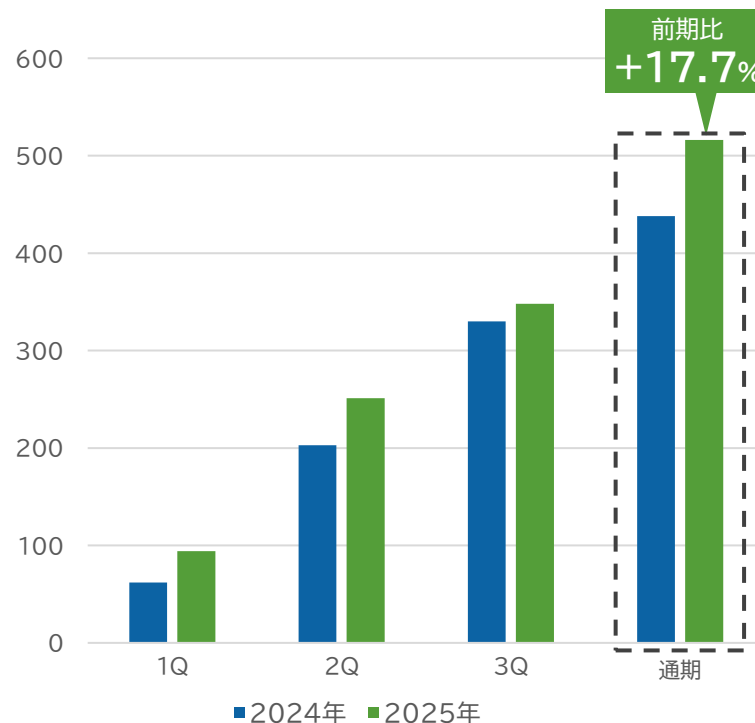
医療アシスタンス事業 売上高



	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	549	1,194	1,838	2,459
2025年	788	1,578	2,353	3,230

(単位:百万円)

医療アシスタンス事業 利益

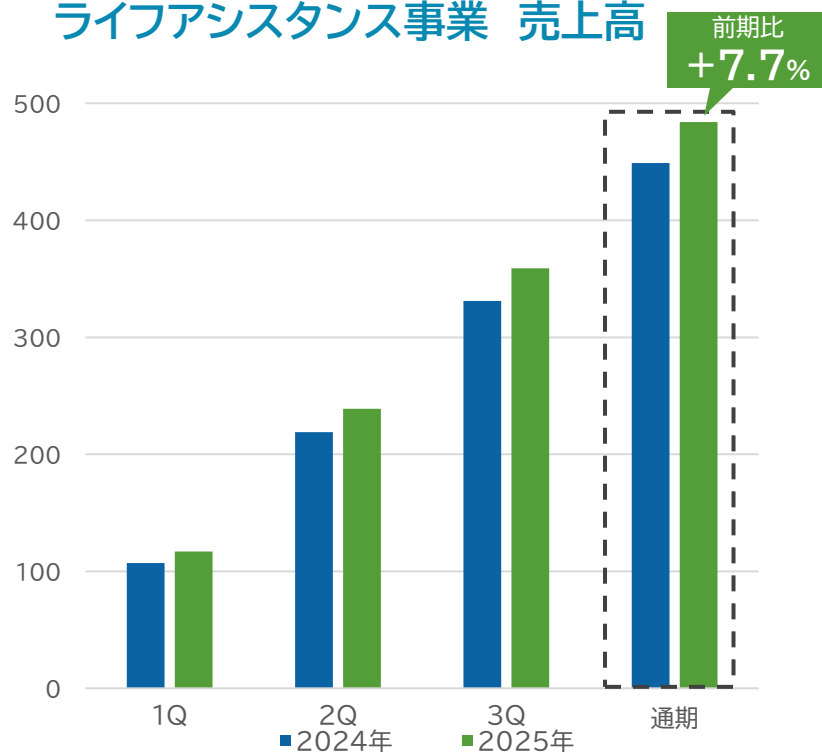


	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	62	203	330	438
2025年	94	251	348	516

(単位:百万円)

# セグメント別業績ハイライト③

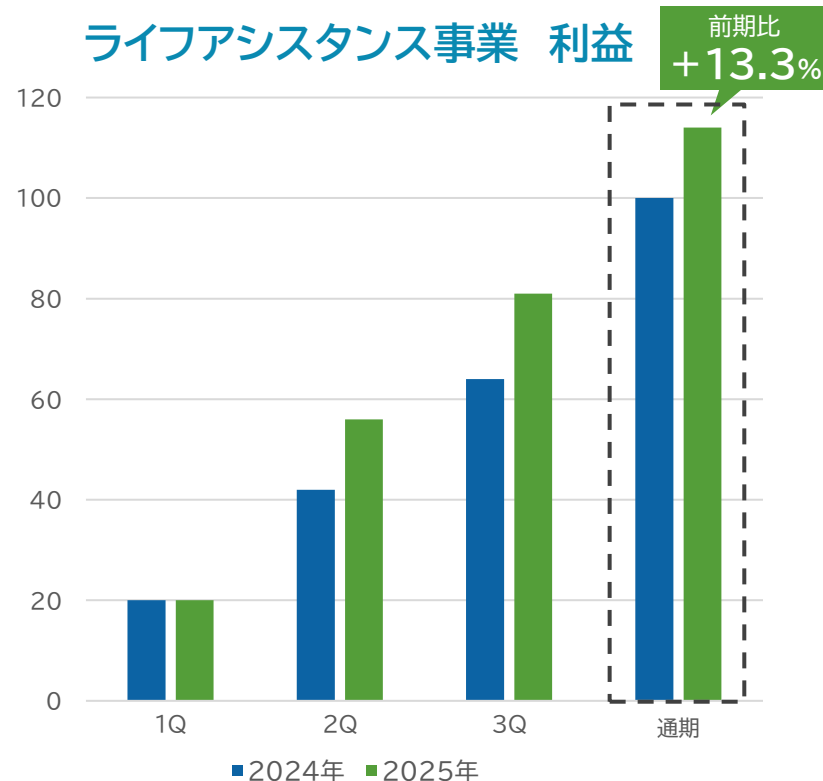
## ライフアシスタンス事業 売上高



	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	107	219	331	449
2025年	117	239	359	484

(単位:百万円)

## ライフアシスタンス事業 利益



	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	20	42	64	100
2025年	20	56	81	114

(単位:百万円)

# 財政状態

# 連結貸借対照表

(単位:百万円)	資産合計 (構成比100%)	負債合計 (構成比52%)	純資産合計 (構成比48%)
2025年	3,813	1,926	1,887
2024年 期末	3,807	2,004	1,803

	流動資産	固定資産	流動負債	固定負債
2025年	3,607	206	1,901	25
2024年 期末	3,574	233	1,973	30

## 資産

- 現金及び預金、売掛金及び契約資産の増加
- 仕掛品、立替金の減少

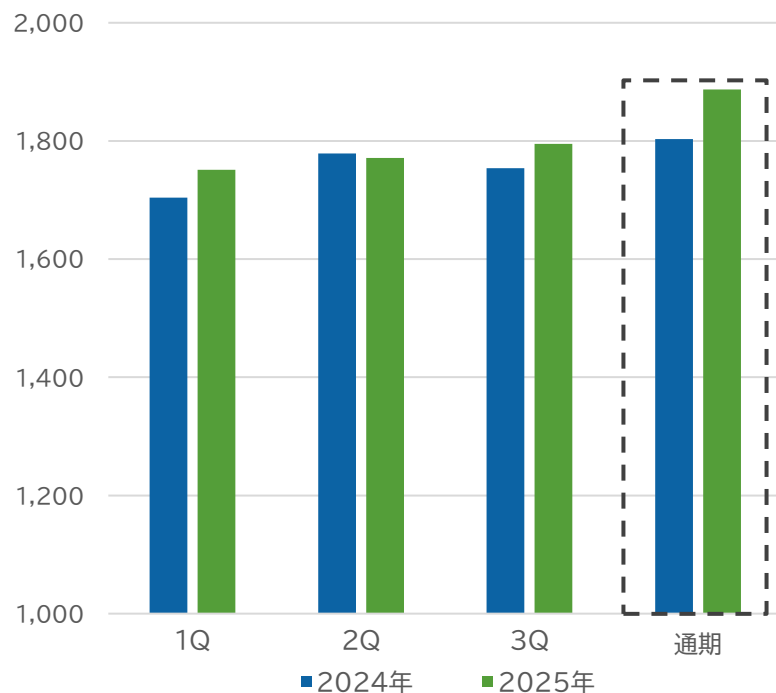
## 負債

- 買掛金、未払法人税等の増加
- 短期借入金、未払金の減少

## 純資産

- 利益剰余金、為替換算調整勘定の増加
- 新株予約権の減少

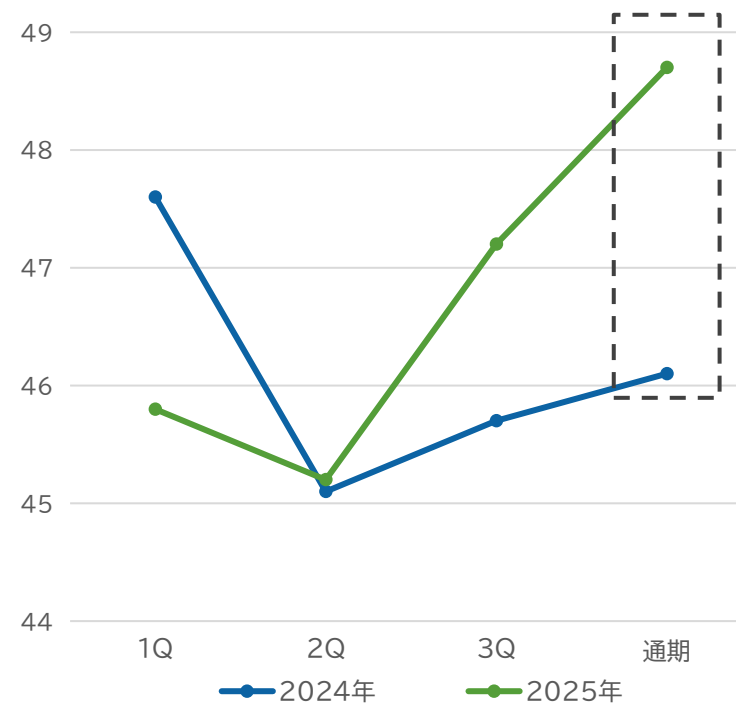
## 純資産



	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	1,704	1,779	1,754	1,803
2025年	1,751	1,771	1,795	1,887

(単位:百万円)

## 自己資本比率



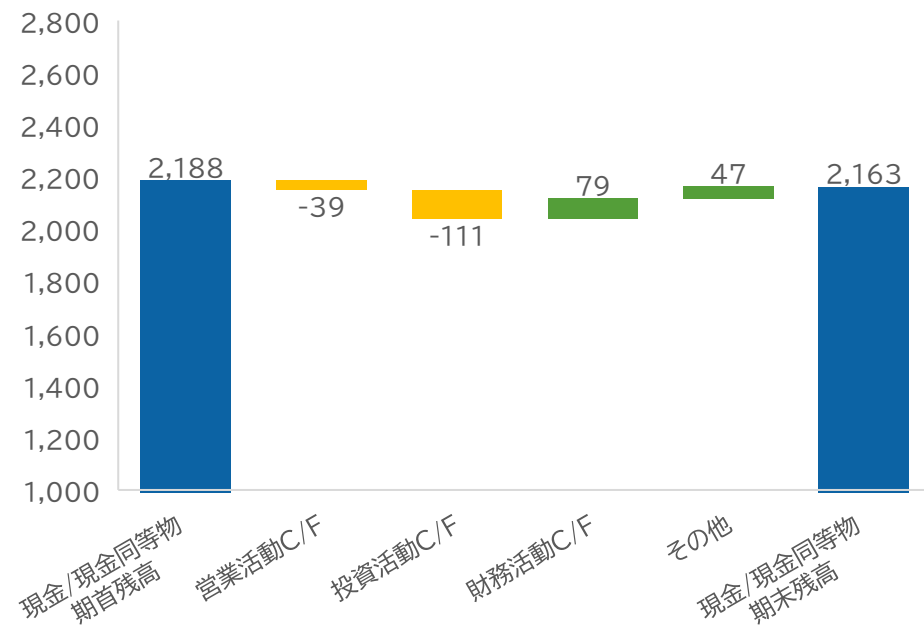
	1Q	2Q	3Q	通期
2024年	47.6	45.1	45.7	46.1
2025年	45.8	45.2	47.2	48.7

(単位:%)

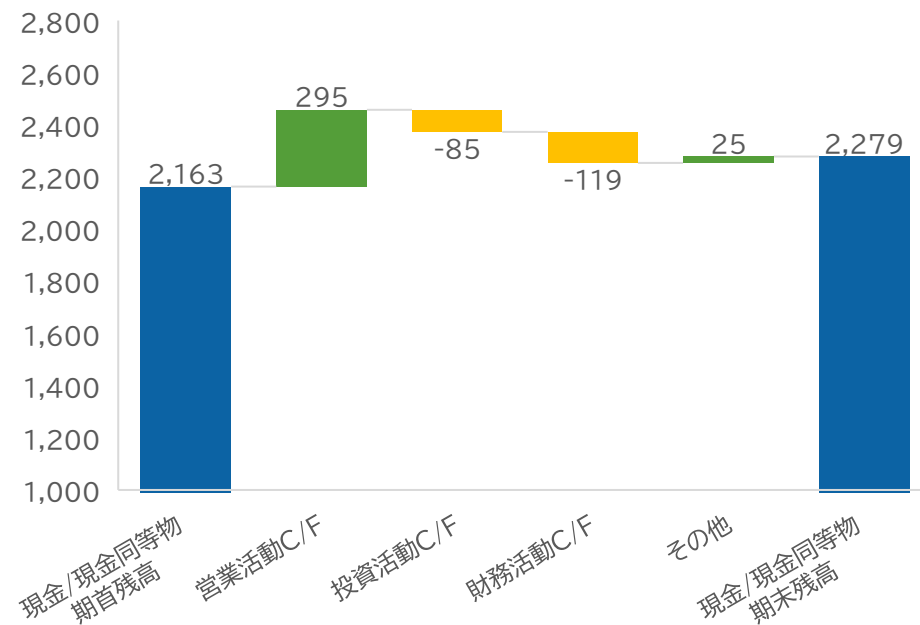
# キャッシュ・フローの状況

- ◆ 当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物は、2,279百万円となった(前連結会計何度は2,163百万円)
- ◆ 営業活動によるキャッシュ・フローは、295百万円の収入となった(同39百万円の支出)
- ◆ 投資活動によるキャッシュ・フローは、85百万円の支出となった(同111百万円の支出)
- ◆ 財務活動によるキャッシュ・フローは、119百万円の支出となった(同79百万円の収入)

前期 (2024/1/1～12/31)



当期 (2025/1/1～12/31)



# 当社事業・サービスの概要・基盤

## ◆ 医療アシスタンス事業

海外旅行保険付帯のアシスタンスサービス	海外旅行保険加入者の海外渡航中、在住中に発生する医療・非医療の保険事故に対してアシスタンスサービスを提供
法人向けアシスタンスサービス	企業や官公庁等の海外在勤者や海外出張者に対して、医療アシスタンスサービスを提供し、企業等の海外リスク対応を支援。また、海外での身体的・社会的不穏(セキュリティ)リスクの管理及びセキュリティ危機対応のためのサービスを主として企業向けに提供
学校向け医療アシスタンスサービス	海外留学する学生に対して、現地での医療アシスタンスサービスを提供し、学校の留学安全対策を支援
救急救命アシスタンスサービス	救急救命士・看護師を活用した国内外での健康危機管理、エマージェンシー対応、救助・救急などのサービスを提供
外国人患者受入の医療ツーリズム	日本での高度医療や健康診断の受診を希望する外国人に来日及び受診にかかわる一連のコーディネートサービスを提供
訪日・在留外国人向け緊急対応型アシスタンスサービス	病気や怪我で治療が必要となった訪日外国人や在留外国人に対して医療アシスタンスサービスを提供
官公庁受託アシスタンスサービス	医療機関における外国人患者受入れの円滑化のためのサポートを提供

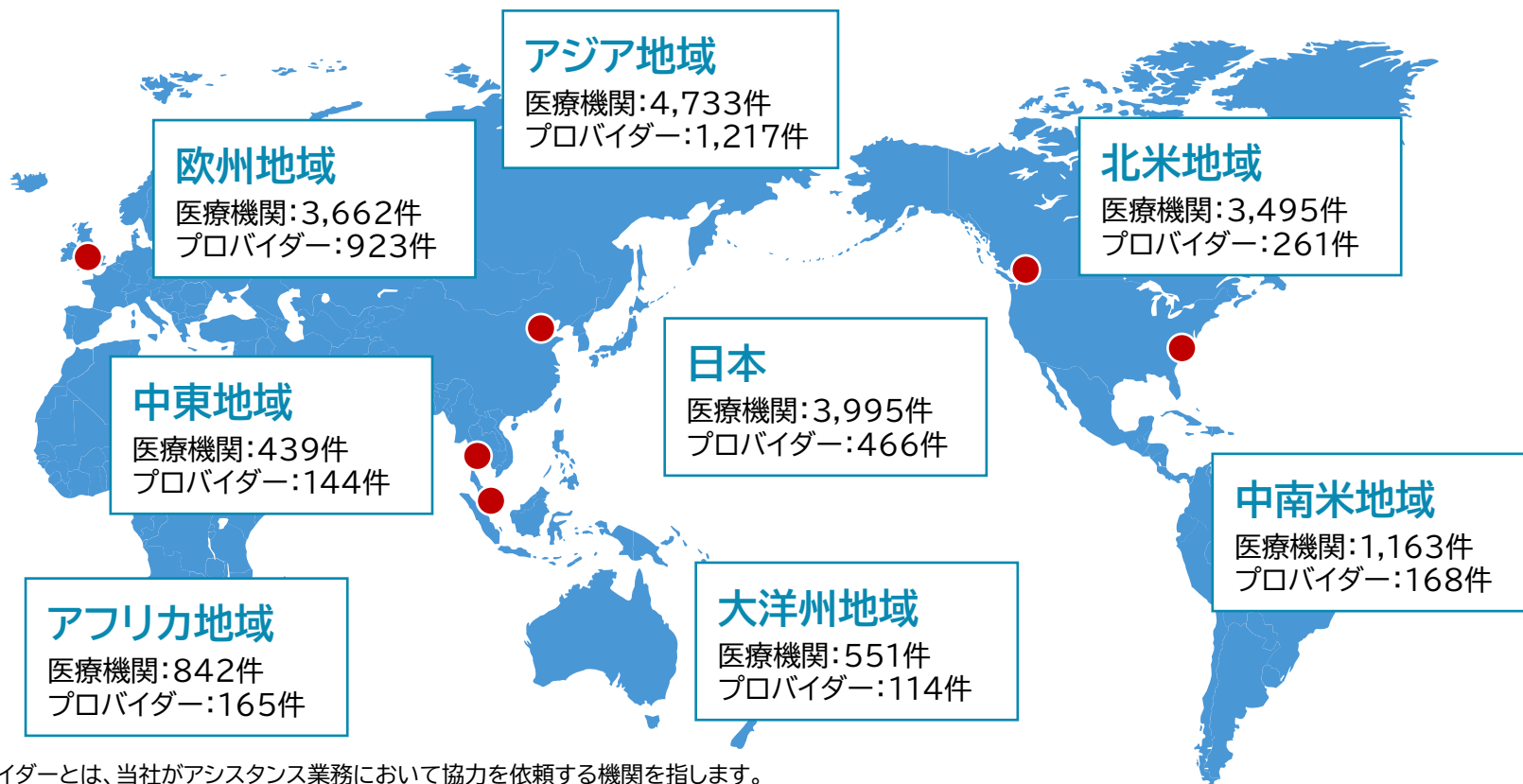
## ◆ ライフアシスタンス事業

クレジットカード会員向けコンシェルジュサービス	ハイエンドクレジットカード会員に対して、主に海外でのコンシェルジュサービスを提供
-------------------------	--



# 全世界をカバーするEAJのネットワーク

- ◆ 6カ国に海外センターを配置（米国、中国、タイ、シンガポール、英国、カナダ）
- ◆ 拠点数は全世界で10カ所、グループ要員数は247名（非正社員を含む）
- ◆ 世界各国で提携関係にある約18,000件の医療機関と約3,400件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



※プロバイダーとは、当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。

EAJ Next Vision中期経営計画2025-2027

# 2026年度 成長戦略

医療アシスタンス領域で培った知見とテクノロジーを融合した  
「次世代型エマージェンシーアシスタンス」の実現を目指す

2026年2月12日

- 2026年度は『EAJ Next Vision中期経営計画2025-2027』の核心フェーズ
- 戦略的投資と収益体質の抜本的改革による企業価値の最大化

## 中期経営計画「EAJ Next Vision」の核心

中計の核心的フェーズ 2026年度は成果へ繋げる「加速の年」として着実な成長を遂行

## 筋肉質で高収益な体質の構築

AI実装への未来投資の実行とコスト削減の合理化を同時並行  
筋肉質で高収益な事業構造への進化を完遂

## AI実装とDX化による顧客体験の革新

オペレーションの効率化によりサービス品質を均一化  
新アプリ導入でデジタル時代の顧客利便性を飛躍的に向上

## 収益体質の強化メカニズム

将来収益のための  
戦略的資本投資 + 合理化による  
全社コスト削減

**= 収益体質の抜本的強化**

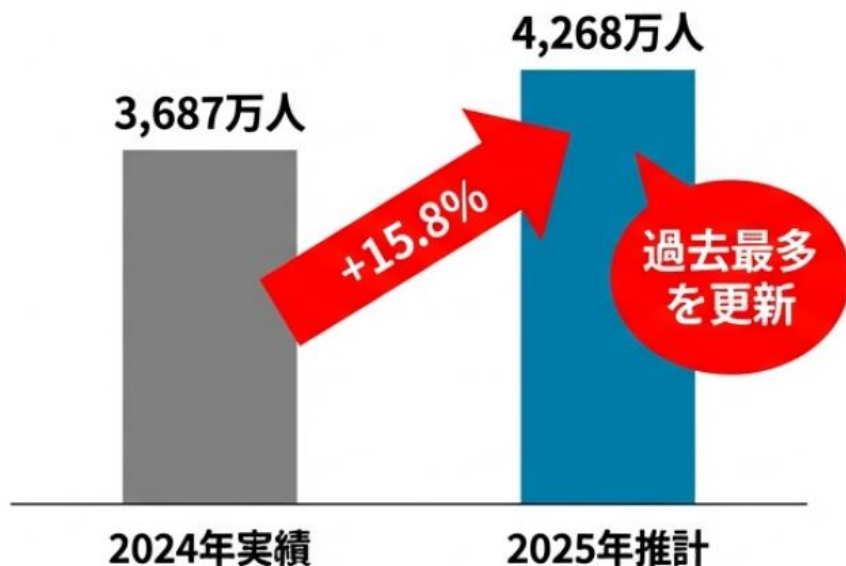
↗ 外部環境：歴史的なインバウンド需要

**4,200 万人突破（2025年訪日外客数推計）**

過去最多を大幅に更新 主力事業にとって極めて強力な成長の機動力

- 円安傾向継続が当社ターゲット市場(アジア富裕層、中間層)を急速に拡大
- 訪日外国人の医療需要増加により医療アシスタンスサービス利用者が増加

## 訪日外客数推移 (JNTO統計)



## 市場環境のポイント

- ・ アジア市場の牽引：韓国(+12.3%)、台湾(+19.8%)、タイ(+18.6%)など当社強みエリアが好調
- ・ 質的变化：個人旅行の多様化により、単なる「数」以上に「医療・安全」へのニーズが急増
- ・ 結論：当社インバウンド事業にとってかつてない強力な追い風

※地政学的リスクによる一部地域からの需要減退などの不確定要因については適宜注視し柔軟に対応

# 2026年度 連結業績目標

## ➤ 業績目標

- ・売上高: 4,000百万円 (2025年度実績: 3,714百万円)
- ・営業利益: 200百万円 (2025年度実績: 96百万円)
- ・営業利益率: 5% (2025年度実績: 2.6%)

売上高

**4,000** 百万円

営業利益

**200** 百万円

営業利益率 5%

ROE

**9.0** %

自己資本当期純利益率

「EAJ Next Vision中期経営計画2025-2027」の2年度目

売上高40億円、営業利益2億円、営業利益率5%を目指す

ROE9%達成により株主・投資家の期待に添う資本収益性を追求

- 既存事業の収益力を強化しつつ、成長分野にリソースを集中
- 24時間365日のナレッジとテクノロジーを融合し、収益体質の改善を図る

## 中長期的な企業価値向上



経営資源の適正配分による  
持続的成長

## ポートフォリオの最適化



収益構造の抜本的見直しと  
高付加価値商品へのシフト

## 業務プロセスの改革 (DX)



AI導入によるオペレーション  
の自動化・効率化

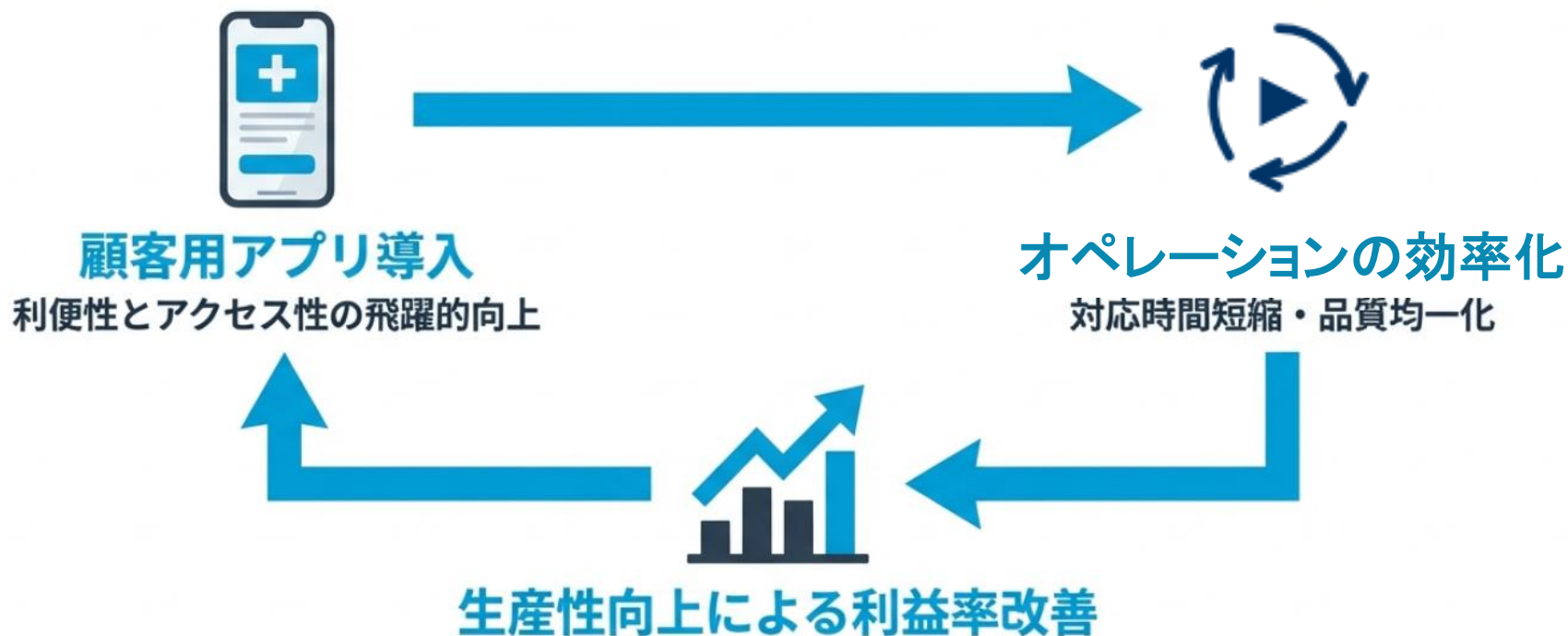
## 成長分野への投資



インバウンド等の高収益領域  
へ資本を集中投下



- オペレーションの対応時間短縮・生産性向上による利益率改善
- 新たな顧客用アプリケーション導入による圧倒的な顧客体験を提供



- AIが定型業務を処理、人はヒューマンタッチに集中 ⇒ サービス品質向上

- インバウンドを最大の成長ドライバーに

## 2026年度を起点とした 「積極的な事業拡大フェーズ」への移行

高収益・低リスクモデルへの転換と「医療×観光」の融合



### 医療ツーリズム事業

高付加価値ウェルネス領域への拡大

- 専門治療の深化と高度医療アクセスの最適化
- 未病・アンチエイジング等ウェルネス領域に進出
- 体験価値を創出する「滞在型医療ツーリズム」展開

### 訪日緊急対応型医療アシスタンス

収益性の抜本的強化とモデル再構築

- 構造改革による積極拡大フェーズへの舵切り
- AI/DX化によるオペレーション刷新
- 新規海外損害保険会社等の積極開拓

2024年  
基盤再構築・最適化

2025年  
体制刷新

2026年～  
積極拡大フェーズ



- 既存事業の収益性強化、特に新規顧客獲得の戦略的アプローチ
- 独自事業の拡大

## 海外旅行保険付帯アシスタンス

- 出国日本人数や訪日外客数の増加傾向により堅調な推移を見込む
- 各損害保険会社との契約更新時における値上交渉を戦略的に実施

## セキュリティ・アシスタンス

- コンサルティング 案件の受注を促進しサービス品質を訴求
- 医療案件からのクロスセル受注機会を活かした戦略的な契約獲得

## 留学生危機管理サービス

- 法人向けサービスとのアプリ統合による利便性向上を新規獲得の武器に
- 既存大学からの加入会員数の増加および新規マーケットの開拓を追求
- **OSSMAインバウンド** 向けアシスタンスサービスの提案営業を促進



## 法人向け医療アシスタンス

- 新たなサービスの提供や提携先からの紹介案件獲得により契約を加速
- インバウンド 医療アシスタンスサービスの提案営業を強力に推進

## 救急救命アシスタンス

- 豊富な事業実績と独自の運用ノウハウを整理・体系化
- 新規プロジェクトやアシスト契約受注に向けた提案営業を幅広く展開

- 医療アシスタンス事業: 安定成長基盤
- インバウンド事業: 医療ツーリズム、緊急対応型医療アシスタンスで飛躍的成長
- ライフアシスタンス・ノンメディカル事業: 高収益体質への構造改革

## ① 医療アシスタンス

### 安定成長基盤

- ・顧客層の拡大とオペレーションDX化による効率化
- ・2026年度目標  
売上: 3,200百万円  
営業利益: 160百万円

## ② インバウンド 医療ツーリズム

### 飛躍的成長

- ・最大の成長ドライバー
- ・2026年度目標  
売上: 300百万円  
営業利益: 15百万円

## ③ ライフ・ ノンメディカル

### 構造改革

- ・収益性重視の構造改革
- ・不採算案件の見直しとリソース集中
- ・2026年度目標  
売上: 500百万円  
営業利益: 25百万円

➤ 2026年度は「次世代型アシスタンス企業」への変貌を遂げる年

- 1. 中計2年目で確実な「結果」を出す**  
売上**40億円**・営業利益**2億円**の必達
- 2. インバウンドを最大の「成長ドライバー」へ**  
市場の追い風を捉え収益の柱へ育成
- 3. テクノロジー活用で「高収益体質」へ**  
AI × ヒューマンタッチの融合

## 株主・投資家の皆様と共に新たな成長ステージへ

アシスタンスを通じて  
お客様が安心して新しい世界へ踏み出していただけるようにする  
それが **EAJ** のミッションです

「アシスタンスでお客様の世界を広げる」

Emergency  
Assistance  
Japan

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。